

令和5年度 小金井市立小金井第二小学校 自己評価まとめ

様式3 学校教育目標 人権尊重の精神を基盤として、徳・知・体の調和がとれ、心身共に健康で、主体的に学ぶことができる児童の育成を図るとともに、国際社会に生きる資質・能力を育てる。
 ○心豊かな子ども ○自ら考え行動する子ども ○健康な子ども

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 ○子どもが「今日も登校してよかった」と実感する学校 ○チーム力を生かし主体的に課題を解決していく学校 ○地域・児童が、母校に誇りをもてる学校
 【目指す児童・生徒像】 さ:さわやかにかいさつ く:クラスの友達と仲良く(苦しい時こそ笑顔) ら:楽な仕事は友達に大変な仕事は自分から(来年、将来の自分をイメージして)
 【目指す教師像】 ○子どもへの愛情に溢れ職務を全うする教師 ○絶えず自己研鑽に励む教師 ○明るく元気な前向きな教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】令和2・3年度に、校内研究において体育の授業改善を行ったことで、コロナ禍における児童の体力向上と教員個々の指導力を高めることができた。
 【課題】若手教員が自信をもていない。子育て世代が多く、十分な校内OITができていない。ICT機器を有効活用した授業づくりについては、学年差があり十分な実施に至っていない。

	具体的方策		課題と対策		成果と次年度以降の対策	
	第1回評価 努力目標	成果目標	努力目標	成果目標	努力目標	成果目標
子どもの権利の尊重	1年:特別支援学級・教室の理解授業 2-5年:言語聴覚指導学級理解授業 3-6年:特別支援学級理解授業 4年:特別支援学級理解授業 毎月の校内委員会や毎週的生活指導夕会において、対象となる児童の情報共有している。相談体制を整え、ふれあい月間を中心に、繰り返し児童に周知していく。	4	特別支援学級や教室、特別支援学校の協力を得ながら実施することができている。理解授業を実施した後の児童の姿容や様子についていく必要がある。学校公開等に合わせ、保護者にも啓発していく。	4	4	各学年の発達段階に応じて交流授業や理解授業を実施することができた。これらに継続して取り組むとともに、保護者も学校公開等でその授業に参加できるようにして、理解・啓発を図っていく。また、隣の第一中学校や小金井特別支援学校等とも連携しながら進んでいく。
授業変革の推進	全教員が個の学びに重点をきたた公 開授業を年間1回以上実施する。	4	1学期と2学期に全員が公開授業を行った。しかし、公開しても互いに見合う時間を確保するのが難しかった。令和6年度は、実施方法を工夫したい。	4	4	対象となる児童の情報を共有することができたが、不登校・登校遅れを減らすことはできなかったため、毎年度のクラス替え・担任替えで組織体制を強化していく。1月の教員アンケートでいじめ調査を定期的に実施し、丁寧な聞き取りを行い、実態を把握し、対応していると思う。令和9割であったため、継続して年次研修や研究員、道場部員、校内研や市教研の研究授業も含め、指導案を作成した授業研究を全員が年間1回以上は実施し、教員個々の授業力を向上させることができた。また、自己申告の授業観察も原則公開とし、授業改善を図る機会としたが、参観者が増えなかったため、見る授業を選択させていく。
地域連携の推進	ICT機器やデジタルコンテンツ活用 の教員研修や情報共有の機会を毎月設 定する。	2	2学期の公開授業は、chromebookを活用した授業を必須としたこと で、全教員がICTの活用を進めることができた。それでも、個人差が 大きい。校内研でもさらに取り組みを継続していく必要がある。	3	4	校内研究を通じ、ICT機器活用方法や授業での活用について情報共有を図り、実践を積み重ねていくことができた。1月の教員アンケートでICT機器・デジタルコンテンツ等を全授業の20%以上で活用し、教員間で情報共有を図っていると思う。令和7割を超えたため、テーマが変わっても継続して取り組んでいく。
地域連携の推進	全学年で、地域の外部講師を招いた 授業を年間1回以上実施する。	3	動物教室を体育館で実施したり、地域の農家の方を訪問して半日 体験したりするなど、体験的な授業を実施することができた。また、ま た、実施できている学年では、今後アンケートをお呼びひしての講 話や実技指導を予定している。	3	4	12月の保護者アンケートで「学校は、学校だよりやホームページ、スкульメールなどを活用し、タイムリーな情報発信を行っていると思う。令和7割超にはできなかったが、昨年度よりは高い評価を得ることができた。一方、「ハチドリプロジェクト」には十分取り組めなかったため、他校の取組を参考に力を入れたい。
特色ある学校づくり	・定期的な情報は月初めに発信する。 ・週1回以上、可能な限り毎日ブログを 更新する。 ・ICTを活用した授業実践、二小ハチドリ プロジェクトについて公開する。 ・体育における二小スタンプカードを全学 級で実践する。 ・学習カードを活用することで、目当て の設定や返りの返りを充実させる。	3	昨年度までの研究の成果を生かして、継続した取り組みができてい るところもあるが、さらに向上させていこうという意欲までは感じられ ない。他校の良い実践例や新たな情報も入れて改善を目指した い。	3	3	12月の保護者アンケートで肯定的な回答が73%と、昨年度より12%も上昇した。これは、令和2年度より3年間、体育の校内研究を進めてきた成果が 実ってきたものと考ええる。今後は、マンネリ化しないようにカードなども進化させ ながら継続して取り組んでいく。
特色ある学校づくり	・なわとび、持久走週間に設定し、休み 時間の運動を促す。 ・二小サーキットを積極的活用し、児 童に多様な運動を経験させる。	3	好きな子どもはどんな取り組みが、そうでない子どもの二極化が進んで しまっている。スマールステップで、継続して行けるような取り組みと したい。教科担任制を意識して、学年内での体育専科制を構築して いきたい。	3	3	インフルエンザ等の流行により、実施期間が思うように取れなかったが、持久走やなわとびの週間は設定して、期間が終了した後も取り組みが児童が 多く見られた。来年度は、高学年で体育・理科・社会の教科担任制を進め、専 門的な指導により、さらなる体力の向上を目指していきたい。
特色ある学校づくり	・学期1回の読書週間に設定する。 ・定期的に学校図書館を整理する。 ・PTAサークル(さくらんぼの会)による 読み聞かせを設定する。	4	読書週間に設定し、読書に取り組んでいる。夏の蔵書点検では、全 教員で協力して学校図書館を整理することができた。さくらんぼ の会の皆さんのおかげで、朝の読み聞かせを高学年児童も楽しみ にしている。	4	4	読み聞かせサークル(さくらんぼの会)の方による読み聞かせや学期ごとの読 書イベント、環境整備等に取り組んでいるが、12月の保護者アンケートでは、 肯定的な回答が昨年度より下がるとともに、「わからない」との回答が多かつ たため、取組の充実を図るとともに、周知にも力を入れていく。
特色ある学校づくり	・芝生維持に係る児童の活動を二小ハ チドリプロジェクトに位置付ける。 ・芝生委員会を中心に、地域ポランテ ィアと共に全職員で整備を行う。	3	児童・教職員・ボランティア、そして何より用務主事のおかけで、芝 生の校庭をいい状態で維持し、活用することができている。今後、ハ チドリプロジェクトとしての取組をどのように行っていくか検討してい かなければならない。	3	4	今年度は晴れの日が多く、体育の授業や休み時間外遊びなど、児童の活 動を優先させながら芝生の維持にも努めてきた。また、児童が登校している期 間は、放課後子ども教室として14時30分から16時30分まで放課遊びがで きていた。今後も「ハチドリプロジェクト」との関連を意識しながら継続していく。